

こうちエコチル調査

「子育て講演会」ご報告

2月11日、小雨にも関わらず**142名**の方にご参加いただき、こうちエコチル調査子育て講演会が開催されました。

テーマは「子どもの成長と発達障害について。育てづらさを感じる子どもを育む。」



会場は高知大学医学部の講義室。当日は本会場とは別に子どもさんを連れて入って頂けるモニター会場も設けさせて頂きました。



◀ 講師の先生方

左から

- 高知大学医学部神経精神科学講座
特任准教授 **高橋 秀俊 先生**
- JA高知病院小児科医長
本淨 護士 先生
- 香美市立あけぼの保育園 園長
国沢 マキ 先生

3人の講師の先生が、それぞれの立場から、「ちょっと気になる子ども」のことを、分かりやすく解説してくださいました。



自閉症スペクトラムの人は、音だけでなく触覚についても敏感な場合もある。いろいろな刺激で疲れて、休養が必要なこともあるし、休養が必要でも働きすぎてしまうこともあり、そういう傾向への配慮も必要ですね。

高橋先生は児童精神科医・研究者の立場から、先生のご専門である、自閉症スペクトラムの人が多く持っている感覚過敏について、実際の支援の例などもあげていただきながら、分かりやすくお話して下さいました。



発達障害とは、乳幼児期や小児期にかけてその特性が目立ってくる発達の遅れや偏りのことで、主に脳の神経系の機能が定型的でないことを原因とします。発達障害には注意欠如・多動性障害、限局性学習障害、運動障害などがありますが、今日は近年注目されている「自閉症スペクトラム障害」についてお話しします。発達障害の中でも症状が早期に現れだし、3歳前後、早い人だと2歳前後くらいで明らかになってきます。できるだけ早く特性をとらえて、何らかの支援につなげていただくのが大事だと思います。

主な徴候は二つで、社会的コミュニケーション及び、対人的相互反応の持続的な欠陥。そして行動や興味、活動の範囲が限定されて狭いということです。有病率は1～2%程度で、70%以上の自閉症に医学的・発達の併存障害がみられます。

また自閉症スペクトラム障害には感覚特性があり、聴覚・視覚・触覚・嗅覚・味覚・固有覚などの感覚刺激に対する過敏さや鈍感さ、または環境の感覚的側面に対する並外れた興味がみられます。認められる頻度は69～95%。一番顕著になるのが6～9歳で、このくらいの年齢で感覚の問題が疑われたら、対応をお考えいただければと思います。感覚特性は周囲から気づかれにくいだけでなく、本人にとっては生まれたころからのことで自覚していない場合もあります。

自閉症スペクトラム障害は遺伝子だけで決まるものではなく、環境的な要因が大事だと考えられています。エコチル調査は環境要因についても考えていきますので、非常に重要な調査だと思います。

子どもを叱るときのポイントは
CCQ (Close 近くに寄って、
Calm 冷静に、Quiet 静かに)。
そして、具体的にどうしたらいいかを伝えましょう。



本淨先生は、小児科医師として、多くのお子さんと親御さんと関わってこられたご経験から、親やまわりの大人が子どもと接する際に気をつけたいポイントについてお話しいただきました。

またESSENCEという12個の質問項目だけで、お子さんが持っているかもしれない困難さを、幼い時期に知っておくことができる考え方についてもご説明いただきました。

動き回る、モノを触る、言うことをきかないなど、気になる子どもを大人は否定的にとらえがちです。そうすると子どもは怒られ続け自己肯定感や自尊心が低くなっていきます。そういった子どもを理解するために、「ESSENCE」という考え方があります。気になる子どもがどういう状態にあるのか、12の項目別にみていくものです。

1. 全般的な精神機能の発達に遅れがみられる
2. 粗大運動や微細運動の遅れがみられる
3. 感覚刺激に対して敏感、あるいは鈍感
4. 言葉の遅れだけでなくコミュニケーション的な身振りがみられない
5. 過度に活動的、逆におとなしすぎる
6. 気が散りやすい、注意を引くのが難しく聞いていないように見える
7. 人への興味、同世代の子どもとの遊び、双方向的な関わりが少ない
8. 同じ行動を繰り返す、日課や予定の変更に強い抵抗を示す
9. 気分が周期的な波がある、変動の幅が大きすぎる、突然気分が変わる
10. 睡眠周期の乱れ、入眠まで時間がかかる、中途覚醒が多い
11. 極端な偏食、特定のものを食べない、食べることを拒否したりする
12. 気づかれにくいてんかん発作、繰り返す熱性けいれんがある

この中の一つ以上が、数か月以上にわたって続く場合に「ESSENCEの徴候あり」ととらえます。そして他にはないか、複数の視点で包括的に子どもの状態をみていきます。

今日は4番目の言葉についての対応を少し紹介します。大人は「ちゃんとしなさい！」と言いますが、子どもにとっては「ちゃんとして何?」。案外伝わってないんです。話すコツは、近づいて、穏やかに、静かに。具体的に肯定的に一つずつ言うとうわかってくれます。それから「泣き止みなさい」という前に泣くほど困っている子どもをまずは受け入れてください。好ましくない行動より、好ましい行動に目を向けて褒めて認めてあげる。その方が次につながるんです。

ESSENCEを入口とした支援の目標は、子どもが損をせず自信をもって生きていけて、家族がお互いを好きでいられるように、ということなんです。

(親や周囲にとって)「困った子」は、
(その子自身が)「困っている子」。
子どもが何に困っているか、その困っている声に耳を傾けて一緒に考えていくことが大切です。

国沢先生からは、保育士として、保育園園長として、実践の場からの貴重なお話と親御さんや保育士さん、子どもに関わる全ての人への温かいメッセージをいただきました。



これまで支援が必要な子どもが大きな可能性を持って伸びていく姿と、その子どもの存在が周りの子どもを育てていく姿を見てきました。目の前の子どもがどんなことを楽しいと感じ、辛いと感じているのか、しっかり見取ることが大切です。今私が考えていることをまとめました。

1. 子どもをどう理解するか、答えは子どもが持っている。
2. いいところ探しをしよう。
3. 興味関心のあることから始めてみよう。
4. 子どもの意欲を育てよう。
5. 困った子どもを困ったままで終わらせない。
6. 個人の育ちと集団の育ちは互いに影響し合って高まっていくもの。
7. 支援の必要な子どもには、気持ちに寄り添える加配保育士が必要。
8. 保護者の方へ。困ったときは周りの誰かに「ヘルプ」と言おう。
9. 保育園は子どもの育つ場、保育士や保護者が育つ場でもある。お互いが支え合い許しあう関係でいられたら。

・「困った子」を困ったままで終わらせないー「困った子」は「困っている子」

気に入らないことがあると暴れていた男の子、「困った子」は「困っている子」。困っているからパニックを起こしている。その困っている声に耳を傾けて一緒に向き合うことが大切です。子どもがどんなことを楽しいと感じ、辛いと感じているのか、しっかり見取ることが大切です。そして、そのとき大人がどうすべきかは子どもが答えを持っています。

・いいところ探しをしよう

支援の必要な子どもは叱られることが多くなるけれど、その子の良いところを認めることが大切。小さな変化や成長を見逃さず褒めていきたいですね。

・しんどいときは「ヘルプ」と言おう

子育てはうまくいかないことが沢山あると思います。心配や悩みのない方はほとんどいないと思います。そんなときはまわりの人に話してみると気持ちが軽くなりますよ。小さなことでも愚痴を言える、その一つが保育所であれば嬉しいです。困った時は「助けて」と言ってみましょう。なんとかなるものです。

保育所は子どもの育つ場であり、保育士や保護者が育つ場でもあります。保育士が子どものことを一緒に考えられるパートナーになれたらいいな、と思います。

最後に、事前に集めた質問に、それぞれの先生方がお答えくださいました。

「人はそれぞれ個性があり、”普通”とひとくくりに言っても、実は大半の人がそうである、という程度のこと。「発達障害」という言葉の有無に関わらず、子ども一人一人に向き合い、困っている声に耳を傾け、できることに注目しそれを伸ばしていく。」

という共通のメッセージを、それぞれ立場の違う先生方から伺うことができた、貴重な1時間半でした。

みなさまからたくさんのご感想をいただきました！

感覚過敏については知らない人が多く、まわりの人への働きかけや不応構想の理解など課題がたくさんあります。子どもの本質を見ていけるようにしていきたい。

3人の先生のそれぞれの立場、視点からのお話が聞けて、子どもを理解する入り口になりました。



家族が幸せに暮らしていくためには、という長い目で見ていくことが大切だと思いました。

焦らずその子の良さを伸ばす子育てが大切だと思いました。少し肩の力が抜けた気がします。



「見る参加」、まさにうちの子。これも立派な参加、というお話が嬉しかったです。ベテランの園長先生のご経験のお話、感動し胸がいっぱいになりました。



エコチル調査・愛知ユニットセンターの6名の研究者・スタッフのみなさまも駆けつけてくださいました！司会はテレビ、ラジオでご活躍の渡辺さおりさん！お馴染みの落ち着いたお声で会の進行を助けていただきました。



今、4歳から7歳半のお子さんとその保護者の方がエコチル調査に参加してくださっています。エコチルキッズの成長を、スタッフ一同、見守っていきたい、と改めて感じた講演会となりました。

今回伺ったお話は、個人的にもとても参考になるお話でした。雨の中、朝早くからお越しくださった出席者の方々も、なにか「ほっこり」するものを感じて会場をあとにくださっていると嬉しいです・・・